



No. 130 (平成30年11月1日)

おもな内容

	ページ
随 想	1
教育講演会	2・3
研修講座寸描	4～8
心に残る授業 その78	8
資料室紹介	8
出前講座寸描	9
Webサイト紹介・受講後アンケートのお願い	10
タブレットの貸出について	10
研究室だより「今、研究室では」	11
パソコン実技研修講座の紹介	12
当研修センターの貸室案内	12

本校では、全校児童の交流を深めるために「緑新活動」を行っています。これは、全校児童を十二班の縦割り班に分け、それぞれの班で協力していろいろな活動をするものです。九月には神楽岡公園でホットサンド作りを行い、その後レクリエーションを行いました。二学期の活動の中でも、児童がとても楽しんでいる活動です。(旭川市立緑新小学校)

随 想

「センターの設立」

上川教育研修センター

副所長 福 家 尚



今を遡ること五十年余り前、昭和四十一年初期に上川管内の教職員の資質の向上を図るため、研修施設を建設しようという動きが発想されました。声を上げたのは、管内の教育長、校長代表で組織する上川教育振興会で、昭和四十二年十月に期成会が設立されました。

建設用地問題で暗礁に乗り上げ一時中断された設立運動でしたが、昭和四十六年四月に再び設置特別委員会を発足し、設立に向けて発動しました。

建設場所については旭川市以外にも東神楽町、東川町、当麻町、比布町、上川町なども名乗りを上げ、ちょっとした「争奪合戦」になったとのが当時の新聞に記されています。旭川以外の選択肢もあったという事実は意外であり、とても興味深いことです。

同四十六年十一月に旭川西高等学校が現在の川端町に移転することになったことから、跡地であるこの地に建設されることが内定しました。もし西高の校舎移転計画がなかったら、あるいは近隣町村に建設地が決定していたら、本センターの歴史・あゆみが大きく変わっていたかもしれません。

その後、旭川市長名と上川教育振興会会長名で道、道議会他に対し陳情を行い、

一方で各市町村議会でのセンター組合設立の議決を踏まえ、設立許可申請、認可という運びとなりました。

センターの沿革誌の記事は極めて客観的な表現で記されていますが、記載の向こうに、設立に向けて尽力されてきた方々の熱願を窺い知ることができます。そして用地問題など様々な障害を克服し、実現させた背景には、自らの実践力向上を求めて止まぬ先生方の姿があったのではないのでしょうか。当時の新聞の見出しには「管内教員の要望実る」とあります。

建設費用は当時の金額で九千万円、うち四千万円が道からの補助、そして残りの五千万円は管内各市町村からの負担でした。各自自治体には現在もセンター運営のために分担金を支出していただいております、このことから教育に対する強い願いと期待が伝わってきます。

初代所長の仁田原寿吉氏は、奇しくも私の母校光陽中学校の校長で、当時私達生徒ですら実感する学校改革をやり遂げた強力な指導者でした。所員の一人として名前を連ねさせていただくのも貴重な縁と受け止め、先輩方が残された優れた業績と伝統の継承のため努力してまいりたいと思います。



本校では、平成二十九年度から学力向上の取組として「学力あそび」を行っています。各種テスト前に一回につき二時間を設定し、全学年の生徒が自分の取り組みたい課題を持参して、学習に主体的に臨ませる取組です。年七回実施し、個の課題に応じた指導を全教職員で行うことで成果も現れています。(剣淵町立剣淵中学校)

センター日誌

7月10日	夏季拡大研究室会議
7月19日	センター組合教育委員会会議
7月30日～8月3日	
8月1・2日	研究室夏季集中研
8月20日	道研連夏季所員研
8月30・31日	センター組合議会定例会
11月1日	道研連研究発表大会(函館大会)
※ 毎週火曜日	センターだより第130号発行
※ 随時	定例研究室会議
	研修講座講師打合せ会議

平成三十年八月八日 教育講演会 「主体的で対話的な道徳授業づくり」

明治大学文学部

教授 諸 富 祥 彦 氏



【講演の概要】

道徳教育の根幹にあるもの

道徳教育の根幹にあるのは、子どもと教師の心と心のふれ合い、気持ちと気持ちの温かいつながりです。この、心と心のふれ合い、気持ちと気持ちの温かいつながりのことを「リレーション」と言います。

この温かいつながりを実現するためには、思いを受け止める必要があります。例えば、誰かの話を聞くと、批判したり、無視したりせず、「聞いてくれている」「受け入れてくれている」と相手が思えるような答え方をしたり、更に話をしたくなるような質問を返したりします。

しかし、言葉だけでは、誤解を招くことがあります。ポーズも付けて、話を聞くことを心掛けることが大切です。こうしたやりとりの中で、子ども同士や子どもと教師が、上辺だけでなく、心と心でふれ合い、温かいつながりをつくっていくことが重要です。

教師は人間関係のプロであれ！

道徳教育は、広い意味で言うと「人格教育」です。この「人格教育」は「人間的な教育」と言えます。そこで一番大切なことは、前段でお話しした「心と心のふれ合い（＝リレーション）」です。

朝日新書から出版されている『教師の資質』の中に、様々な教師の資質（＝コンピテンシー）について書きました。いろいろな力が教師には必要になりますが、特に教師には「人とかかわる力」「ぱっと人とふれ合う力」「心と心のふれ合いをぱっとつくる力」「人との人格交流能力」が必要になります。

特に道徳教育、道徳授業においては、人と丁寧にかかわる力や、相手に関心をもってもらえていると感じられることが、道徳的なかわりとしては重要です。道徳的なかわりでは「どの人にもきちんと関心を向ける」ことが、公正であり、公平な対応となります。関心をきちんと向けることで、関心向けられた子どもが育っていきます。私たちは、自分が関心のある子どもに目を向けがちですが、どの子どもへのどの発言にも、ぱっと関心に向けることが、プロの教師として身に付けるべき技なのです。

先生方には、プロ意識を高め、プロの人間関係力をもった教師として子どもとかわってほしいと思っています。「教師は人間関係のプロでなくてはならない」これがポイントです。

本気で生きる 魂を燃やして生きる

私が子どもたちに一番伝えたいことは「一生懸命本気で生きることの素晴らしさ」です。私は、教師のメンタルヘルスにも携わっているのですが、働き方改革も大切だと思いますが、一方で「人間、ここぞと決めたら命がけで仕事をするべきだ」とも思っています。自分のメンタルを守り、ヘルスを守ることばかりに気を取られ、いつも無難に仕事をしていると、



本気で生きること、魂を燃やすことがありません。これでは、魂を燃やして生きることが子どもたちに伝えられるはずはありません。

私は、3・11の地震の後、二か月半の間、睡眠時間も削って、本気で命を燃やして二冊の本を書きました。書き上げたとき「私はやるべきことをやった」という、ものすごい達成感、充実感がありました。その後、睡眠障害となってしまいました。が、何の後悔もありません。たまには自分が壊れるくらい仕事をしないと死ぬと、き後に後悔する人生しか送れないのではないかと思います。

仕事、恋愛、家族、子育て、介護、趣味：何でも構いませんが、何事かを本気でやっているということが、教師として大切なことだと思います。本気で何かをやっている姿を見せることが、一番の人格教育になります。保護者の立場でも教師の立場でも、これは変わりません。何かを本気でやるということなしに、いくら理屈で道徳教育をやっても、何の意味もないと私は思っています。

ですから、まずは大人の道徳教育、人格教育が重要です。本気で生きている人、一生懸命生きている人が、自分を深く見つめながら、大人同士で深く語り合い、深く聞き合っていると、人格的な成長が起きてきます。教師自身の人格的な成長（＝自己成長）、これを欠いて子どもにだけ道徳教育をしようとしても、そんな虫のいい話はありません。自分自身の人格、心を磨かなくてははいけません。

体験的な要素を取り入れる

以前は、カウンセリングと道徳教育の間には、距離があったように思いますが、新しく示された学習指導要領では、両者の距離は近くなったように思います。これは「体験」という要素が入ったからです。

これまでは、体験的な活動、例えばエンカウンターなどをやっている、それは道徳ではなく特別活動だと言われることがありました。しかし、これからは、体験的な活動を取り入れた道徳授業を行っていくことが大切になります。旧来型の「主人公の気持ちを問うていくような発問の道徳」だけではなく、「行為や体験を重んじた授業」や「問題解決型」の授業が増えていくと思います。



例えば「生命尊重」の授業で、妊婦さん

をゲストとして呼び、お腹に聴診器を当てて中の音を聞く。これは体験的な要素を含む授業となります。あるいは、赤ちゃんの体重と同じ重さの人形を用意します。これも、生命を授かることの大変さを体験できる授業となります。また、実際に妊婦さんと呼ぶことができなくても、お腹の中の音のCDを用意し、聞かせるだけで、生命の鼓動を聞かせるという体験的な授業となります。他にも、ネットをくぐらせて誕生の模擬体験をするなど、様々な方法があります。形にとらわれず、体験的な要素を取り入れた道徳の授業をつくってみるとよいと思います。

ところで、道徳の授業に体験的な要素が取り入れられるようになった背景には、これまでの道徳授業では、道徳の実践力が十分に育っていないという反省があります。

例えば、電車の中で、おばあさんが立っているとき、皆さんのクラスを想像したときに、実際にその場で席を譲れるという子どもは過半数を超えているでしょうか。私は、せいぜい二〜三割の子どもしかいないと思います。しかし、席を譲ってあげた方がよいかないという思いをもてる子どもは八割くらいいるのではないのでしょうか。

つまり、日本の子どもは、道徳的な心は育っているけれど、実際の行動に移せる子どもは少ないということです。

モラルスキル

トレーニングを通して

では、その実践力を高めるにはどうすればよいのでしょうか。

そこで、現在実際に行われているのが「モラルスキルトレーニング」です。動作化とは異なり、学級内を三〜四人一組にして、学級全体でスキルをロールプレイで身に付けていくというものです。

気持ちはあるけれどもできなかったというような場面を設定し、それぞれが役割を演じながらできなかったときの気持ちを考えます。その後、考えたことを学級全体で共有し、「どうすればよいのか」を考えます。

問題解決型の考え議論する道徳の大きな発問の仕方は「どうすればよいのでしょうか」「何ができるでしょうか」「できることには何があるでしょうか」です。このような発問が、旧来の気持ちを問う発問に替わるメインの発問となって、これから増えていきます。

その後、考えたことを、再びロールプレイで確認し、さらにモデルとなるパターンも経験します。動作化との違いは、「全員がよいパターンも悪いパターンも経験する」ということです。

このような「してみせて、やってみて、そしてみせて」を繰り返すことで、さらに重要なポイントを語り合うことで、スキルは身に付いていきます。夏期休業開けに、一度は実践してみてください。

問題解決的な道徳授業

もう一つの新しいタイプの授業は「問題解決的な学習」です。これは、問題状況を突破することに焦点を当てる学習です。問題を解決する方法として「できること」を子どもたちに考えさせます。

子どもたちに考えを出してもらったことが難しければ、教師の方からいくつか選択肢を提示することも必要ですが、その際、必ず「その他」の選択肢を入れることがポイントです。教師が考えつかないようなアイディアが子どもから出ることも、道徳授業においてはよくあることからです。

「できること」を考え、問題状況を突破する。このような思考を身に付けさせることをねらいとしたものが「問題解決的な道徳授業」です。

おわりに

問題状況を突破するための思考、クリエイティブな思考は、この難しい時代を生き延びていく上でのコンピテンシーとして求められるものです。

目の前にある問題状況をどのように突破するか、どのように解決するかを含めた問題解決の能力を子どもたちに育んでいきたいと思います。

4 学校経営Ⅰ 6/6(水)

林 林 藪 笠井
邦子 雅和 稔雄
(緑が丘中) (青雲小) 北海道教育大学
校長 校長 教授

Ⅱ講師Ⅱ



(和寒町立和寒中学校 宮田 新也)

講義では、笠井教授より「校長のリーダーシップ」は如何にあるべきかを、また、レポート交流では、助言の先生より「学校経営の在り方」について御教示いただきました。今後の学校経営に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

講座の様子から

研修講座寸描

5 学校経営Ⅱ 6/7(木)

伊東 義晃(中央中) 校長
古高 誠志(近文小) 校長
竹森 茂雄(富良野東中) 校長
田中 義彦(神楽中) 校長

Ⅱ講師Ⅱ



(東神楽町立東神楽中学校 中村 公暢)

講話では今後の教育の動向と教頭に必要な資質について具体的な御示唆をいただき、自分自身の教頭としての仕事を振り返る事ができました。分科会では各校の状況を交流する事ができ、今後の学校経営に生かしたいと考えております。

1 特別支援教育 6/8(金)

野辺地知子 北海道立特別支援
教育センター教育課
自閉症・情緒障がい
教育室研究員

Ⅱ講師Ⅱ



(愛別町立愛別小学校 井口 貴道)

日常生活や学習面で困っていることを改善・克服するために自立活動があるのだと再確認しました。
研究授業・協議の中で指導の実際を交流し、実態に応じた自立活動が将来へ向けた自立につながるのだと学びを深めることができました。

6 書写実技 6/12(火)

矢野 敏文(北海道教育大学) 特任教授
千葉 陽香(忠和中) 教諭

Ⅱ講師Ⅱ



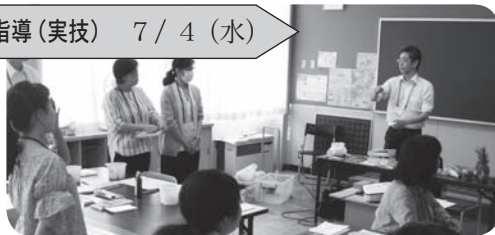
(旭川市立東明中学校 石井 千賀)

工夫された教具と整った学習規律、流れるような授業展開。課題意識をもち、真剣な表情で取り組む生徒の姿に感銘を受けました。授業・講義とも日常に生きる書写指導について深く考える良い機会となりました。ありがとうございました。

7 図工・美術科指導(実技) 7/4(水)

南部 正人
旭川校 教授
佐藤 賢一
(近文第1小 教諭)

講師



図工が専門でも得意でもないのが不安がありました。図工の授業を参観する機会がないので勉強になりましたし、実技研修を通じて図工の楽しさを味わうことができました。ありがとうございました。

(美瑛町立美瑛東小学校 菅野 里沙)



(占冠村立トマム学校 佐久間 麗唯)

8 複式教育 7/13(金)

大垣 瑞恵 (正和小 教頭)
長谷川 義博 (美馬牛小 教諭)

講師

複式授業の進め方を再確認すると共に、複式の利点についても理解を深めることができました。また、少人数でも思考を深め広げることができたので、日々の授業に生かしていきたいです。御指導ありがとうございました。

12 いじめ・不登校 7/30(月)

村田 昌俊 (北門中 校長)
前田 聡 (中央中 教諭)

講師

提言や講義の中で、いじめ・不登校の様々な事例や、対応について紹介していただき、大変参考になりました。

また、グループ研修では、少人数で一ケースについての対策を検討するなど、有意義な研修となりました。

(旭川市立永山南中学校 平井 旭)



13 幼小連携教 7/30(月)

片桐 正敏 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
三浦 記子 (知新小 教諭)
伊藤 さえ子 (神居東小 教諭)

講師

幼小連携に関する知識が乏しい私でしたが、今回の講座を受けて一つ一つ分かりやすく教えて頂き、連携に対する不安が減りました。また、実際に小学校の先生の意見も頂き、今後の参考になりました。様々な御指導ありがとうございました。

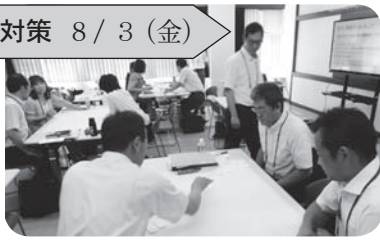
(さくらおか幼稚園 沼田 知巳)



18 学校力向上対策 8 / 3 (金)

水 上 文 実
福 澤 秀 (北海道教育大学 教授)
二階堂貴裕 (樹海中 校長)
(近文小 教諭)

講師Ⅱ



講話では、学校力を高めるためのマネジメントについて具体的な内容で示していただき、これまでの取組の省察と今後の方向性の確認ができました。演習では、授業改善の取組について各学校の取組を交流し、有意義な研修となりました。
(旭川市立大有小学校 加藤 久貴)



講座を通して、北海道の事務職員が置かれている状況を改めて考えることができました。また、グループワークで各校の備品管理などについて交流し、自校でも取り組みたい実践を学びました。御指導ありがとうございました。
(士別市立多寄小学校 富樫 奈菜)

20 学校事務実務 8 / 6 (月)

齊藤 朋恵 (教育庁教育職員局 教職員事務センター 主査)
藤崎 利男 (樹海小 事務職員)
葛西 賢人 (士別南中 事務職員)
原田 和茂 (幌加内中 事務職員)
谷口 才和 (緑が丘中 事務職員)

講師Ⅱ

22 技術・家庭科指導(実技) 8 / 22(水)

川邊 淳子 (北海道教育大学 教授)
工藤 知里 (旭川校 教諭)
(東栄小 教諭)

講師Ⅱ

体験的で児童の気付きを大切にしたい研究授業を参観させていただきました。また、新学習指導要領における家庭科教育の指導の在り方の講義や、不要になった衣服をリメイクする実技研修もあり、大変有意義な研修となりました。
(旭川市立啓明小学校 小野寺 里歩)



23 ICT活用 8 / 23(木)

坂田 幸親 (春光台中 教頭)
吉野 法行 (旭川第2中 教諭)

講師Ⅱ

タブレットの効果的な活用方法や管理方法について教えていただきました。タブレットの基本機能を使って、画像を共有する方法は、すぐにでも実践できる内容でした。早速、自校で活用していきます。御指導ありがとうございました。
(剣淵町立剣淵小学校 向井 裕人)

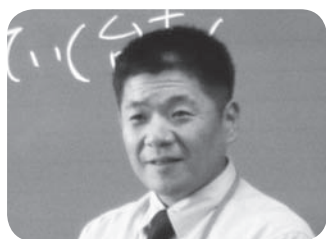
14 道徳教育 7/31(火)・8/28(火)

水 上 丈実 (北海道教育大学 教授)
 牧 健一 (教職大学院 教頭)
 川島 一毅 (士別南小 教諭)
 加藤 慎司 (北星中 教諭)

講師

(南富良野町立南富良野小学校
 大道菜津弥)

道徳授業の在り方や授業展開・評価について、講義や実際の授業を参観することで具体的に考えることができました。
 学んだことを校内で共有し、実践に生かしたいと思います。講師の皆様、ありがとうございました。



(旭川市立神居東中学校 石橋 史也)

15 理科指導 8/1(水)・8/28(火)

高橋 一将 (北海道教育大学 講師)
 三木 勝仁 (旭川校 校長)
 福井 秀晃 (樹海小 教諭)
 田中 秀平 (西御料地小 教諭)
 (神居中 教諭)

講師

講話では今日の課題について示していただき、実践交流では児童生徒が抱いた疑問を共有し、課題を意欲的に解決する姿を見せていただきました。私は思考を深める手立てについて大変勉強になりました。御指導ありがとうございました。

24 保健安全指導 8/29(水)

田村 浩恵 (緑が丘中 養護教諭)
 及川みなみ (旭川中 養護教諭)

講師

(幌加内町立朱鞠内小学校
 熊谷 珠里)

講話では学校現場でのアレルギー対応の実態について学ぶことができました。また、研究授業を見ることで、アレルギーの知識は教職員だけでなく、子どもたち全体に伝えることが大切だと学びました。御指導ありがとうございました。



10 算数・数学科指導 7/27(金)・8/30(木)

相馬 一彦 (北海道教育大学 教授)
 長濱 雅美 (旭川校 教諭)
 小山 裕子 (旭川第2小 教諭)
 鈴木 靖典 (東神楽中 教諭)

講師

講師の先生方、また、参加された先生方から主体的、対話的な授業は、このような授業を実践していけばよいのだという事例をたくさん教えていただきました。授業案をFAXしてくださった先生方と一緒に隣席で参加された先生方との研修は、私の財産になりました。ありがとうございました。

(美瑛町立美馬牛中学校 藤原 慶)



25 体育科指導（実技） 8/31(金)

辻 小出 高義
典男 旭川校 准教授
(忠和中 教諭)

II 講師 II



研究授業、研究協議、実技、講義と幅広い研修内容で、児童・生徒目線と教員目線の両方から活動を考えることができ、今後の指導計画の立案に大いに役立ちました。御指導ありがとうございました。

(中川町立中央小学校 千葉 祐貴)

心に残る授業

その78



北河 剛 治

上川教育局義務教育指導班
指導主事

IoTやビッグデータ、AIをはじめとする急速な技術革新やグローバル化の進展など、社会の大きな変化が予想される中、次代を担う子どもたちには、社会の変化に主体的に向き合いながら未来を切り拓く資質・能力を身に付けることが求められております。

そのため、各学校においては教育課程全体や各教科等の学びを通じて、「何ができるようになるのか」という観点から育成すべき資質・能力を整理し、その上で「何を学ぶのか」という必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という子どもたちの具体的な学びの姿を考えながら構成していくことが大切です。

私が参観した心に残る授業は、単元や内容のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて行われた小学校第5学年の国語の説明文の授業です。

その時間は、単元の1時間目で、学級担任と児童が対話を通して単元の学習計画を作成し、単元の終わりまでに児童に身に付けさせたい力を明確にすることにより、単元全体の見通しをもたせるという場面でした。学級担任が「書き手の論の進め方を捉えつつ、説得力のある文章を書く能力を身に付ける」という単元のねらいを児童の姿として明確にしたからこそ、児童が進むべき方向性を見据えて学習計画を作り上げていくという見事な授業でした。

また、グループで意見交流をしたり推敲をしたりする場面が適時適切に設定されており、その交流の質の高さからは、日常におけるペアワークの充実や学級経営の重要性について改めて感じることができました。

さらに、出来上がった学習計画では、児童が考える場面と学級担任が教える場面が明確になっており、教えることを厭わない学級担任の姿勢が見てとれました。

これからも、一単位時間の充実はもちろんのこと、単元や内容のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた先生方の弛まぬ授業改善の姿とそれによって学びを深め、資質・能力を身に付けていく子どもたちの姿を見つめていきたいと思えます。

【各種資料の御活用を！】

当研修センターの1階には、各種教育雑誌や各出版社の教科書を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていますので、ぜひ御活用ください。

なお、所蔵資料は当センター Web サイトからも御覧いただけます。



正和小学校「算数科指導」 6/29(金)



【講師：柴田 康徳（明星中 教頭）】
算数科の改訂のポイントで先生方が日ごろからどんなことを大切にして授業をしているのか深いところまで交流できました。また、本校の研修に沿った指導案作りでは、授業の構想順を改めて考えました。今後の研修に生かしていきたいと思ひます。

（旭川市立正和小学校 山本 百里）



比布中学校「特別支援教育」 6/25(月)



【講師：目良 久美（美瑛町教育委員会 特別支援教育担当課長補佐）】
特別支援教育に関する最新情報を交えて、ポイントを分かりやすく教えていただきました。今後の実践で生かしていきたいと思ひます。子どもの発達についてクイズ形式で考える場面もあり、楽しくためになる講座でした。ありがとうございました。

（比布町立比布中学校 竹内 千晴）



出前講座寸描

当麻小学校「いじめ・不登校」 7/19(木)



【講師：松田 剛（臨床心理士）】
豊富な御経験を基に御講義いただきました。あつという間の二時間でした。「問題の原因を探る」よりも、「ほんの少しでもうまくいっていることを探る」ことの大切さを知り、自分の視点を大きく変えることができました。ありがとうございました。

（当麻町立当麻小学校 小田島 充彦）



美深小学校「パソコン実技」 7/9(月)



【講師：石本 周司（末広北小 教諭）】
講座で、タブレットの活用方法を示していただき、暖味だったICT活用のイメージがはっきりとしました。また、普段の仕事の効率化を図るための使い方も教えていただき、自分もぜひ取り入れたいと思ひました。御指導ありがとうございました。

（美深町立美深小学校 根本 佳樹）



鷹栖中学校「ICTの活用」 7/23(月)



【講師：児玉 考弘（中央中 教諭）】
「ICTの活用方法について理解を深める」を目的に、御講話をいただきました。業務改善につながるエクスセルの紹介、機器の使用法、使用上の注意点を丁寧に教えていただき、効果的な活用方法を考えるきっかけとなりました。

（鷹栖町立鷹栖中学校 松島 善朗）



緑が丘小学校「構成的グループエンカウンター」 7/20(金)



【講師：五十嵐 徹（近文第2小 教頭）】
グループ・エンカウンターに関するエクササイズを交えて活動したことで、とても和やかに研修することができました。内容も具体的・実践的であったので、すぐに指導に生かすことができました。御指導ありがとうございました。

（旭川市立緑が丘小学校 飛内 健佑）

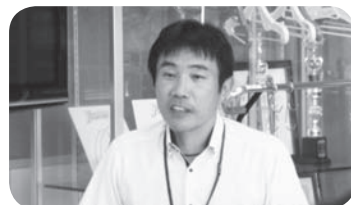


忠栄小学校「道徳教育」 8/27(月)



【講師：山本 浩貴（東五条小 教諭）】
学習指導要領の読み解き方から授業のポイント、評価に至るまで、山本先生が学んでこられたこと、実践されてきたことを惜しげもなく分かりやすく御教授いただきました。熱意あふれる指導に感謝いたします。ありがとうございました。

（東神楽町立忠栄小学校 池田 謙治）



扇山小学校「木版画指導」 7/26(木)



【講師：村田 靖彦（愛宕中 主幹教諭）】
講話の中で版画、絵画の指導の在り方を具体的に示していただき、指導計画の立案に対する考えを深めることができました。また、多くの作品を見ながら学べたことで、児童目線の活動を考えることができました。ありがとうございました。

（富良野市立扇山小学校 清水 孝治）



上川教育研修センター
試そう上川の力で 創ろう上川の力で 生かそう上川の力を

TOP

所長挨拶

お知らせ

当施設について

研究事業

研修事業

管内研究大会情報

その他

Q



施設・貸室について



研究事業



研修事業

2018年9月13日 NEW H30年9月5日（水）「生徒指導」

2018年9月13日 H30年9月4日（火）「英語科指導 2 日目」

2018年9月13日 H30年8月29日（水）「保健安全協議」

2018年9月13日 H30年8月29日（火）「道徳教育 2 日目」

【 センターWebサイト紹介（4月にリニューアルしました） 】

各種研修講座・パソコン実技講座の情報や実施講座の様子、保管資料（教育関係書籍等）の紹介、センターだより「教育研修」のバックナンバーなど、当研修センターについての情報を掲載しています。ぜひ、御活用ください。

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

～受講後アンケートのお願い～

研修講座・パソコン講座を受講された皆様に一定期間をおいてのアンケートをお願いしています。講座の成果と課題をふまえて、次年度の計画を立てるための大切な資料として活用させていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

当研修センターの Web サイトから御回答ください。

i P a d（タブレットPC） 無料貸出しの御案内

現在、上川教育研修センターには、最新モデル2台を含め、計15台のi P a d（i O S 10：9台、i O S 11：6台）があります。また、研修センターは館内無線LAN環境が整っており、無料で数十台のPC等が接続できるアクセスポイントを設置しております。

当センターを利用した各種講座や各研究団体研修会等において、タブレットPCを用いた内容で実施されてみてはどうでしょうか。ぜひ御活用ください。

また、各学校や各種研究大会など無料でi P a dを貸出しいたします。校内研修での利用や研究授業などに御利用いただければと思います。尚、PC実技研修講座での活用予定がある場合や、他出前講座、一般講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、その場合は何卒御了承ください。

※貸出しにつきましては、事前に電話にて御連絡ください。

※破損や紛失の場合は弁済していただくことになってしまいます。十分御注意ください。

第17次研究2年次

今、求められる授業に挑む！

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」の解明に向け、センター所員が研究授業を行いました。

研究員2年目 美瑛小学校 田村 仁

小学校第2学年 国語科「たんけんした ことをつたえよう」

〈授業の概要〉

分かりやすく伝えるために構成を考えて書く授業に取り組みました。指導する観点を意図的に抜いた報告文と教科書の例示を比較することで、分かりやすく伝えるためのポイントを児童自らが見出し状況を作り出すことで、解決策を考える力を身に付けることを目指しました。

単元の展開

時	主な学習活動
1	・町探検報告文を書き、クラスの友達に紹介するという単元の見通しをもつ。
2	・記録カードに書かれていることをもとに、報告文を書く。 生活科で書いた記録カードで書いてみる場面
3	・記録カードと教科書の探検カードを比較し、カードを書く観点を明確にする。 「探検カード」の秘密を探る場面
4	・見学を通し、見つけたこと、聞いたこと、思ったことをもとに「探検カード」に書き、最初に書いた「記録カード」と比較する。
5	再度、見学場所に行って「探検カード」を書き直す場面
6	【授業公開場面】 ・本時の学習内容にかかわる部分を意図的に抜いた報告文例と教科書の文例を比較し、形式を発見する。 ・はじめ、中、おわりにわかれていることに気付く。 ・はじめの構成で、探検場所を選んだ理由が書かれていることに気付く。 ・中の構成で、順序を表す言葉が配置されていることに気付く。 ・おわりの構成で、思ったことについて書かれていることに気付く。

深い学びを充実させるための手立て

〈個の課題意識を高める場面を設定する。〉

情報の不足した記録カード報告文を書くことにより、分かやすく伝える報告文を書きたいという思いをもたせました。報告文がうまく書ことができないもどかしさ、書いてはみたものの、情報が足りないことへの気付き、疑問、思い等から個の課題へとつなげ、児童自らが問題点を見出し解決策を考える力を身に付けることができると考え、単元の指導計画を作成し、学習に取り組ませました。

主体的な学びを実現するための手立て

〈学習課題の提示〉

単元の学習を見通すために、課題を「上手な報告分を書くために、書き方の秘密を発見しよう」とし、本時の学習が単元のどこに位置付くのかを確認しつつ、「町探検報告会」というゴールを意識させながら学習に取り組ませました。



対話的な学びを実現するための手立て

〈思考の活性化〉

学習内容を確実に理解させるために、本時で学習した「構成」を意識して文章の改善点を考える推敲の時間を設けました。1時間の中に推敲の時間を設けることで、確実に定着を図ることができると考えました。



パソコン実技 研修講座レポート

今日教育界ではこれまでに、PCやタブレットPCといったICT機器の重要性が高まっています。また、操作も簡単になり、スマホを代表とする各種機器が日常的に当たり前に使用されるようになりました。当センターパソコン実技研修講座では、これらICT機器の各種操作方法を学び、校務や授業に活用できるようにと講座を開設しています。

今年度より、パソコン実技研修講座は「表計算ソフトに関する講座」と「タブレットに関する講座」の二本柱で講座を実施しています。まず表計算ソフト（エクセル）に関する講座では、エクセルの基本的操作や、VLOOKUP関数を用いたデータ参照を中心に、より複雑なシートの作成を目標に、入門編と活用編を実施しています。また、今年度より午後半日の開設時間で、各学校で日常的に使用しているエクセルファイルを受講者の方に持ち参り、その操作方法や改善点を講師とともに解決していく個別課題解決を二度開設することといたしました。すでに六月一八日に一度目を開設いたしました。満員の中、日頃操作で悩んでいた各種エクセルファイルの操作を解決されました。

二本柱のもう一方であるタブレットP

C講座は、今年度から入門、授業、校務の三種の計九回開催することとしました。入門編では、iPadの基本的な使い方やiOSの基本操作と基本用語について学ぶなど、これから使用したい先生方のニーズに応える内容となっています。授業編では、まさに授業での活用を意識し、「二斉学習型」「個別学習型」そしてタブレットを使用し児童生徒の深い学びとなるように「協働学習型」の三種の各種アプリの紹介及び実践し、明日からの授業にタブレットを活用できるように講座内容となっています。校務編では、校務や日常生活で活用できるアプリや各種クラウドサービスの紹介及び操作方法について学び、作業の効率化を図る内容となっています。また、タブレットPCの講座九回すべてで、著作権や肖像権、情報セキュリティなどインターネットの危険性について短時間ではありますが講義を必ず実施するようにしています。

タブレットPCで授業改善、エクセルやクラウドで校務の効率化を目指し、当センター三階よりICTの面から「働き方改革」をバックアップしていくことができればと考えていますので、今後とも皆様の受講を期待しています。



タブレットPC（iPad）入門編の様子

利用上のお願い

会場利用にあたっては、右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

貸室使用料〔一般〕

（教職員等、「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	2,700 円	3,020 円	4,320 円
講 堂 A・B	1,350 円	1,510 円	2,160 円
研修室 / 会議室	1,080 円	1,290 円	1,830 円
和 室	540 円	640 円	860 円

冷暖房料（研修センター事務室にお問い合わせください。）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	1,080 円	1,290 円	1,620 円
講 堂 A・B	540 円	650 円	810 円
研修室 / 会議室	540 円	640 円	860 円
和 室	320 円	320 円	320 円

* 冬季は暖房料、夏季は冷房料が加算されます（冷房料は講堂と第1研修室のみ）

宿 泊 料

2,700 円〔暖房料〕 430 円（1部屋）
* 研修講座受講者、「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者、小中学生は1,290 円

発行日 平成三十年十一月一日
印刷所 上川教育研修センター
〒070-0036
旭川市六条通四丁目
電話（0166）241-2501
責任者 佐藤 保
印刷所 東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙（古紙70%）を使用しています。